



## 持続可能な開発に関する 非鉄金属協議フォーラム

2001年11月12～13日  
ポルトガル ポルト

### 議長サマリー

非鉄金属に関する国際研究会 3 団体、国際銅研究会（International Copper Study Group）、国際鉛・亜鉛研究会（International Lead and Zinc Study Group）、国際ニッケル研究会（International Nickel Study Group）の加盟国は、2001年11月12～13日にポルトガルのポルトにおいて、持続可能な開発に関する非鉄金属協議フォーラム第2回会合を開催した。フォーラム開会宣言は、ポルトガル経済担当国務大臣である、エドゥアルド・オリヴェイラ・フェルナンデス教授によって行われた。ポルトガル政府主催によりル・メリディアン・ホテルにて行われた同会合の議長は、アレック・エストランダー・フィンランド環境研究所部長とジェリー・マイルズ英国貿易産業省非鉄金属担当副部長が共同で務めた。出席者は21ヶ国からの代表者約75名に上り、うち7名は環境、社会、その他の非政府組織の代表者であり、また産業界や業界団体、さらに欧州委員会、一次産品共通基金、UNCTAD（国連貿易開発会議）などの政府組織の代表者も含まれていた。フォーラムへの代表者名簿は添付の通りである。

今回のフォーラムの目的は、ブリュッセル会合以降の3つの作業部会における進捗状況を討議し、今後の進路を定めることであった。生産作業部会、製品管理作業部会、科学研究開発作業部会は、既存作業の統合、情報共有、ギャップの特定を行うとともに、将来のアクションに向けてフォーラムが特定した活動を迅速に開始することを使命として設立されている。各国政府、産業界、業界団体、非政府組織、学界、政府間組織からの100名以上の参加者が協力して、この3つの部会の作業に当たっている。

アクションに向けた個々の実施事項に加え、作業部会は一体となって、持続可能な開発に対する非鉄金属の貢献に関する全般的な「ビジョン」を作成した。このビジョン表明は、進捗状況を評価し将来に向けた優先順位の決定を助ける有用なチェックリストとなる。

3つの作業部会の共同議長はそれぞれ成果を報告するとともに、今後作業を推し進め参加を拡大するための機会開拓のアイデアとして以下のような事項を発表した。

### 生産部会

同部会は、持続可能な開発の推進力と、コミュニティーの参画におけるベストプラクティスに関する作業を継続し、より幅広いフォーラムにおいて発表し検討に付するケーススタディを作成する。

### 科学研究開発部会

ライフサイクル分析とリスク評価に関してかなりの作業がすでに進行中であることを認識し、同作業部会はこれらトピックについて世界中で進行中の既存作業に付加価値をつけることに注力する。



International Copper  
Study Group



International Nickel  
Study Group



International Lead and  
Zinc Study Group



## 製品管理部会

同部会は、業界団体/企業/NGO から成るグループとともに時宜にあわせて作業を進め、同部会が策定した原則と基準を基にする製品管理計画を導いていく。フォーラムは同部会に対し、他機関、特に MMSD（鉱業、鉱物資源及び持続可能な開発）/ICMM（鉱業と金属に関する国際評議会）、OECD（経済開発協力機構）、世界銀行との間で、今後数ヶ月間にその経験を共有し、重複を避けるよう努めることを勧告した。

各作業部会の作業プログラムは付録 A に詳説されている。各部会からの成果品と本会合で発表された背景説明文書はフォーラムのウェブサイト [www.nfmsd.org](http://www.nfmsd.org) で閲覧が可能である。

共同研究会リサイクル会議（2003 年開催予定）においては、発展途上国および経済が過渡期にある諸国のニーズに集中して政策課題を扱うことを、フォーラムは勧告した。

フォーラムは、3 つの作業部会各々への参加の幅を広げるとともに、部会間のつながりを強化する必要があることを受け入れた。これに関しては各部会がそれぞれ果たすべき役割があるが、個々の活動の調整は部会の共同議長たちが責任を持つこととする。

フォーラムは、その活動の認知度を高め、他機関との共同作業を進めることの必要性を認めている。これは、戦略指針ディスカッションペーパーで概要が述べられ、この目標達成手法をよりよく反映するよう本会合でさらに改善された通りである。加えて、南アフリカのヨハネスブルグで開催予定の持続可能な開発に関する世界サミットをにらみ、加盟諸国が別のアプローチを選ばない限り、最終のサミット声明で鉱物資源と金属の重要性が明記されるよう、各国が準備委員会代表者に働きかけることをフォーラムは勧告している。その他の利害関係者も、それぞれ利用可能な経路を使って同じ目標に向かって努力することが薦められた。

フォーラムの事業を拡大する機会が今後数ヶ月間にいくつも予定されているという認識に基づき、フォーラムは、作業部会が作業プログラムを実施し、月に 1 度の割合で定期的に会合を開き、2002 年 4 月 8～9 日に行われるフォーラムの会合（会場未定）で進捗状況を報告するよう指示した。

共同議長はまた、フォーラム参加者が実のある成果達成のために一体となって努力するコミットメントが依然として堅固なものであることを述べた。世界中から集まったこの利害関係者集団の完全に自主的な努力によって、著しい進歩がすでに実現されている。

フィンランド環境研究所  
公害防止部部長  
アレック・エストランダー  
Alec Estlander  
Division Director  
Finnish Environment Institute  
Pollution Prevention Division  
PO Box 140, FIN-00251  
Helsinki  
Finland

英国貿易産業省  
金属部副部長  
ジェリー・マイルズ  
Gerry Miles  
Assistant Director  
Metals Directorate  
Department of Trade & Industry  
151 Buckingham Palace Road  
London SW1W 9SS  
United Kingdom



International Copper  
Study Group



International Nickel  
Study Group



International Lead and  
Zinc Study Group



## 付録 A

### 生産作業部会

#### 持続可能な開発推進力分析

- データベースへの追加を継続する。産業界の視点/意見に焦点を当てる。
- 持続可能な開発プログラムの効果評価のための基準策定を継続する。
- 選択したプログラムについて、具体的なケーススタディを作成。直接関与している人々の参加を求める。

#### コミュニティー参加

- プログラムのリストを拡大する。
- 意思決定プロセスに利害関係者を巻き込むために有効な仕組みを評価し、ケーススタディを作成する。
- 参加の幅を拡大する。
- ケーススタディに直接関与した個人を招き、より幅広いフォーラムで経験や教訓を討論する。
- フォーラムの幅を広げ、これまで関与していなかった政府機関（環境、資源、保健、財務、その他国際機関（海外開発庁など））および、地理的かつ先進/発展途上の課題を対象としている NGO を取り込む。
- フォーラムの幅を広げ、コミュニティー参画における持続可能な発展のための効果的な推進力とベストプラクティスに関し学んだ教訓と基準を定義する。
- 資金と金融サービスコミュニティー（負債と株式）を導入する。
- フォーラムを使って、統合された意思決定/規則と自主的取り組みの開始を取り上げる。
- 結果報告書を発行する。



International Copper  
Study Group



International Nickel  
Study Group



International Lead and  
Zinc Study Group



## 製品管理作業部会

### リサイクル

- 共同研究会リサイクル会議は、リサイクルおよび途上国と経済的過渡期にある国のニーズに影響する政策問題に集中した社会的、政策的、組織的な非技術的課題を取り上げる。
- 研究会事務局が構成する小規模のタスクフォースが、適切な組織と協議し、一次産品団体、NGO、政府間組織などフォーラム内に存在する専門家の援助を受けて、この会議を組織する。
- 世界銀行等の機関は、ハードな技術移転よりも、能力向上政策や能力構築に対する財政支援を提供することにより興味があることが指摘された。
- UNCTAD（国連貿易開発会議）は同会議への支援を表明した。

### 製品管理計画

- ビジョンから原則そして基準への段階的作業の承認は、有用な体系的アプローチとして受け入れられた。
- 提案された基本原則は一般的支持を得た。
- 自主性、段階的採用の可能性、柔軟性と異なる状況に対する対応能力といった、製品管理計画に必ず含まれる重要な特徴が強調された。
- 重複を避けプロセスをより明確化するために、本作業部会がここで策定した概要を、他組織、特に、MMSD/ICMM、OECD、世界銀行等との間で共有すべきであると強く推奨された。
- 2002年5月に開催が予定されている世界鉱業イニシアチブ・トロント会議の場で、製品管理に関する進捗状況をより完全な形で発表できるよう、理想的には2001年中に、フォーラムの少人数の代表団がICMMと会合を持つべきである。
- 前進に向けて熱心な業界団体/企業のグループを特定し、複数利害関係者プロセスを用いて計画の試行を行うことにより、いくつかの問題の検証をさらに進める。パイロット計画はひとつの金属の全側面を含む必要はなく、定義された一部を対象とすることができる。
- 部会は、政府内、政府間、産業界、NGO主導などに関わらず、すべてのフォーラムで、あらゆる機会を捕らえて策定中の原則と基準を討議すべきである。
- 既存の製品管理活動に関する経験についてのケーススタディ文書は、閲覧範囲を拡大すべきである。
- 部会は、計画の知的強度とデータ入手可能性との間でトレードオフがあったことを認識し、範囲、製品利用指標、データの問題解決に引き続き取り組むべきである。
- スケジュールの策定が必要である。



International Copper  
Study Group



International Nickel  
Study Group



International Lead and  
Zinc Study Group



## 科学研究開発作業部会

### 持続可能な開発科学活動の評価

- ユーザーグループとそのニーズを定義する。
- ユーザーグループの資源の最適利用法を見定める。
- ユーザーフレンドリーにし、継続的更新を計画する。
- 適切な既存データベースとの統合促進/連結を行う。  
国連システム  
個々のセクターが設置しているデータベース

### リスク評価

- フォーラムは政策決定において健全な科学に基づくリスク評価が必要であることを認めている。
- 金属のリスク評価に関する勧告を策定するために対話を継続する。
- 金属のリスク評価プロセスを策定するために、他のリスク評価政策/技術グループと協力する。
- 既存の政策枠組みと手続きを評価し、それらを金属に適用するよりよい方法を見つけるため、利害関係者間の対話向上を含め、検討する。

### ライフサイクル分析

- 金属関連の継続中のプログラムから得られた教訓をまとめる。
- 金属関連のベストプラクティスの評価から、すべきことと、してはいけないことを引き出す。
- 他のフォーラムにおいて継続中の金属に限定したプログラムに積極的に参加する。
- データと方法論のギャップと、それらに対応する戦略を特定する。
- 持続可能な開発に関連した補助ツールへのつながりを特定する。
- この作業を進めるために利用可能な資源を見極める。
- ライフサイクル分析は社会・経済的考慮は含まないことを認識する。



International Copper  
Study Group



International Nickel  
Study Group



International Lead and  
Zinc Study Group



### 科学ネットワーク

- 科学ネットワークの認知度を向上させる。
- ネットワークの内容、扱い範囲、理解を拡大する。
- この資源の最適利用法を特定する。想定されるユーザーグループを定義する。ユーザーからのフィードバックのための仕組みを提供する。
- ネットワークをホストするためにフォーラムのウェブサイト [www.nfmsd.org](http://www.nfmsd.org) を利用する。

### 科学部会活動の効果の最大化

- 同部会の資源は限られており、ライフサイクル分析とリスク評価の分野の数多くのフォーラムにおいてかなりの作業が進行中であることを認識して、同部会は保有する金属特有の専門知識とこれまでに実行された実質的な作業を利用して、その全般的な作業からより強力な効果を生み出すことに集中すべきである。
- 科学作業部会、製品管理作業部会、生産作業部会の間に関連付けに明示的に取り組まなければならない。
- 合意が得られた優先順位リストによって、科学部会の輪郭を鮮明化する。すなわち、最重要事項を最初に実行する。
- 持続可能な開発に関する非鉄金属協議フォーラムをさらに前進させるための様々な関係者とその役割を特定する。
- 利用可能な資源の明確化が必要である。
- 政策側面への焦点を維持する。これが本フォーラムのユニークな強みである。



International Copper  
Study Group



International Nickel  
Study Group



International Lead and  
Zinc Study Group